修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3－36337

58年度 修学旅行の補助金

文部省・要保護、準要保護

三万五千二百円に

緊縮予算の中で増額を

五十八年度予算が四月四日参院本会議で成立し、今年度の要保護・準要保護及び高度へき地の児童生徒に対する修学旅行費と校外活動費の補助額が決定した。修学旅行費では、中学校生徒三万五千二百円で昨年より千二百円の増となるなど、きびしい予算の中で理解が示された。

財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）と開東・東海・近畿三地区公立中学校連合委員会（南裕之会長）は、修学旅行費並びに校外活動費の国庫補助について、実態の諸調査に基づき、五十八年度予算における増額を要望してきた。

文部省では交通費の値上げ、諸物価の上昇など、修学旅行に要する費用の実際をふまえ、現在、各省庁予算削減を求められる客観情勢の中で、恵まれない要保護・準要保護家庭の児童生徒の修学旅行費・校外活動費の補助について特に配慮し、概算要求においても、各項にわたり増額計上をしてきた。このたび決定の五十八年度補助は、文部省要求通り次のようにきまった。

〔中学校〕

修学旅行費は要保護・準要保護を対象とし、生徒一人当り、千二百円アップして三万五千二百円、その対象人員は、前年度十万三千八百三十四人より千七百九十人増えて、十万五千六百二十四人である。

また校外活動費は準要保護生徒を対象とし、①宿泊を伴うものは、一人につき昨年度より三百四十円増の二千五百七十円、人員は二千八百七十三人増の三万四千五百七人となった。②宿泊を伴わないものは、四十円増の九百八十円、人員は三千七百四十人増の二十五万五千七百八十五人となっている。

〔小学校〕

修学旅行費では一人につき、七百円増の一万千三百円、対象人員は昨年度より四千百二十六人増え十一万三千九百二十九人である。

校外活動費は①宿泊を伴うものは、七十円増の千六百五十円、人員は三千七十一人増の五万八千五百十一人となった。②宿泊を伴わないものは、三十円増の六百七十円、人員は五十四万九百四十六人で、七千六百三十二人減っている。

〔補助金の予算合計額〕

要保護・準要保護対象の修学旅行費補助額は、小・中学校合計で、昨年度より一億五千五百五十四万七千円増の二十五億千百七十七万九千円となり、準要保護対象の校外活動費は、五十八年度小・中学校合わせて、三億九千九百十六万四千円計上され、昨年度より二千六百八万九千円増えている。

〔高度へき地の補助金〕

三級から五級の高度へき地の児童生徒を対象とした修学旅行費の補助額は、要保護・準要保護家庭の児童生徒と同額が、小・中学校それぞれ予算化された。一級二級へき地の児童生徒についても、毎年要望を重ねてきたが、五十八年度は見送られることとなった。

要保護及び準要護児童生徒への補助額

校種別			57年度	58年度
修学旅行	中学校		34,000円	35,200円
修学旅行	小学校		10,600円	11,300円
校外活動	中学校	宿泊を伴うもの	2,230円	2,570円
校外活動	中学校	宿泊を伴わないもの	940円	980円
校外活動	小学校	宿泊を伴うもの	1,580円	1,650円
校外活動	小学校	宿泊を伴わないもの	640円	670円

中学校

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

関心高い「つくば博」

小中高調査・六七〇五校

科学万博つくば'85 アンケート調査

(財)全修協では、国際科学技術博覧会（科学万博－つくば'85）について、児童生徒が教育的見学上の利便を得るよう関係諸機関に要請するため、学校現場のこれに対する対応について動向調査を昨年十一月実施、その後集計分析を行ってきたが、このほどその結果がまとまった。

科学万博は、人類の未来に夢と希望を与える構想で、「人間・居住・環境と科学技術」をテーマに、昭和六十年三月十七日から、百八十四日間、茨城県の筑波学園都市を中心に開催される。

目下、関係機関で諸般の準備が進められている。

二十一世紀の社会を担う青少年への教育的意義と価値も大きく平素の学習を拡充発展する上にも、またとない機会であると考える。

当協会では、この見地からできるだけ広い範囲からの見学実施が望ましいと考え、校種別、会場地との距離などを考慮し、全国各都道府県、小・中・高校約六千七百校を選んで動向調査を行った。

〔調査対象と回答率〕

高校は全国各都道府県の四千九百六十校、中学校は中国・四国・九州・沖縄を除く各都道府県の千四十二校、小学校は関東各県及び宮城・福島・愛知・静岡の諸県で七百三校を、それぞれ調査対象校とし、小・中・高校の総計六千七百五校に対し、調査を実施した。

回答数は高校千七百三十八校で回答率三五％、中学校が四百三十六校回答率四一・八％、小学校が二百二十校回答率三十一・三％となり、小・中・高校の回答数の合計は二千三百九十四校、回答率三五・七％であった。

〔調査項目〕

調査項目は次の十項目の他、科学万博に対する意見・要望等の欄を設けた。

①科学万博についての関心②見学実施の有無③実施の時期④実施学年⑤実施形態（目的）⑥見学時間⑦参加方式⑧宿泊希望地⑨利用交通機関⑩予定費用

〔調査の概要〕

各設問について各都道府県別に集計し、さらに地方ごとに、小・中・高校別に集計整理し、回答に寄せられた意見・要望等を参考にしながら考察を加えた。これによれば、科学万博の見学計画は、まだ未確定の学校が多い。学校の全体教育計画や年間行事計画は、前年度校内の研究協議の結果、その学校の教育課程として編成される。各学校の見学実施の問題は、五十九年度以降、職員会・学年会等で具体的に検討されると考えられる。したがって六十年三月から開催される科学万博に関する、このアンケート調査は、「もしも見学実施するならば」の前提による回答が多く、「実施する、しない」の回答数と一致しない場合もある。

しかし、調査の全体を通してその一般的傾向を知る上で、多くの示唆を含んでいる。紙面の関係で、小・中・高校別の集計資料を考察し、その主要な点を要約すると次の通りである。

〔集計結果の考察〕

関心の有無＝「関心ある」の回答は、高校回答数千七百三十八校のうち千五百三十一校（八十八・一％）、中学校四百三十六校のうち三百七十六校（八十五・八％）、小学校二百二十校のうち百九十三校（八十七・七％）であり、ほとんどの学校が関心を示している。

見学の実施＝高い関心度が必ずしも見学実施に結びついていない。実施する（したい）が、高校百六十二校、中学校三十九校、小学校二十四校となり、実施しないの回答数は、高校五百七十二校、中学校百六十七校、小学校百四校、未定は高校九百七十一校、中学校二百二十八校、小学校七十九校となっている。未確定校の意見を要約すると、①例年の修学旅行計画の変更は無理がある②学校として未検討である③科学万博の内容が不明で、資料や案内書が欲しい－などである。

関東地方の開催地県及び近接県では、修学旅行とは別個に、高校・中学で遠足、校外学習を利用する実施校数が、他地方よりも多い。一般に従来の修学旅行を変更し、科学万博見学を組み入れることは、むずかしいとする意見も多く、北陸・東海から、近畿・中四国・九州・沖縄へと、遠隔の地方ほど、その費用や県教委の修学旅行実施基準の関係など実施上の困難点がある。北海道の中学校は道教委基準一千キロ以内により、制約を受けている。

また中学・高校の中には学校行事でなく、個人見学でよいとする意見もあり、小学校では、父母同伴の自由見学でという意見も多かった。（つづく）

科学万博開催まで、あと「700日余り」・シンボルマークと残時間表示のデジタル時計（4月4日・広報部うつす）

風紋

今年暮あけの春の研修旅行は一応終ったが、引き続きグリーン・ツアー、夏の旅行と拡がっていく。人は西行、芭蕉など先人のロマンを求めた旅が潜在意識となって旅にいざなわれるものだ▼「旅は苦労」という伝統的本質が失われていく昨今、日常生活から脱出して自由に、自己発見の旅をするには、ひとり旅と団体旅行の接点を求めて、意識的に旅の本質に近づくよう、次のアドバイスにしばし耳を傾けてみよう▼せめて旅行中はテレビのスイッチを入れないこと－日常生活からの脱出。車中は友人とはなれること－閉鎖的旅行に終りがち。なるべくカメラを持参しないこと－視野をせまくする。はだしで土地の人と触れ合うこと－旅での見聞はなるべくまぎり気のない目で受けとめたい。沢庵和尚のことば「知識は賢人から得るものでなく、農民と子どもから得るものだ」▼さらに旅は目的地より過程が大切－乗物主義ではわからない。日常の欲望をすてること－民宿はすてられる宿。なるべく観光地と観光旅館をさけること－結局観光旅行に終りがち。政治経済を拒否するところに真の旅が生まれる－貝原益軒のことば「自然の享受は貧賤にして時にあわざる人が得易い」▼平常、四季の移りかわりがわかる程度の継続的散策、とくに冬の日だまりを求めて近郊の散策が旅への下地とはなる。落葉をふんで歩く旅は「木を見て山を見ず」という人間のおちいり易い失敗から救ってくれる等々、ひとり旅を提唱する山本哲氏のことばだが、できることから一つ、二つでも実行して、あなたの旅の拡がりと深まりを得たいものだ。

信頼される旅づくり

こんな笑顔、残してあげたい。

修学旅行

近畿日本ツーリストは、生徒のみなさんに素晴らしい修学旅行を…の願いから、教育映画の制作に取り組んでいます。現在のライブラリーは、中学・高校生を対象とした『学習の旅シリーズ』全16篇。そして社会・文化・歴史・教育・観光・自然など、幅広い分野から制作された『ツーリスト映画シリーズ』全15篇（国内10・海外5）。いずれも修学旅行の事前指導、学習教材としてご活用いただけます。ツーリストはこのような文化活動を通じて、教育・一般社会のみなさまにお役に立つよう、努力を続けています。

◎ツーリスト映画リスト　※修学旅行の事前指導や学習教材に、どうぞお気軽にご利用ください。

学習の旅シリーズ 題名	上映時間	受賞	ツーリスト映画シリーズ（国内） 題名	上映時間	受賞	ツーリスト映画シリーズ（海外） 題名	上映時間	受賞
北海道・道東	20分		北海道	29分	文部省選定	ヨーロッパの旅	30分	日本産業映画奨励賞（第14回）
北海道・道南	20分	文部省選定	京都の庭園	26分	文部省特選			
東北	20分		京都の川	34分	文部省特選・芸術祭大賞（46年）	大いなるアメリカ	30分	
日光	15分	文部省選定				アメリカ西海岸の旅	30分	
東京	15分		大和の塔	38分	文部省選定	ハワイの休日	33分	
富士箱根	20分	文部省選定	大和の石	25分	文部省選定・文部大臣賞	東南アジア	30分	
信州	20分	文部省選定						
京都	20分	文部省選定	大和の道	25分	文部省選定・文部大臣賞			
奈良	20分	文部省選定						
伊勢志摩	22分		南紀	28分				
山陽山陰	23分	文部省選定	瀬戸内海	31分	文部省選定			
九州やまなみ	20分	文部省選定	沖縄の心	31分	文部省選定			
九州西海	20分	文部省選定	うつわ（食器の文化）	41分				
南九州	20分	文部省選定						
光あふれる沖縄	21分							
スキースクール	22分	文部省選定						

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号

いま修学旅行は

修学旅行の実態調査

―三重県修学旅行研究会―

57年度・小、中、高校

-2-

前号まで　1、修学旅行の実施基準を掲載―

二、小学校の修学旅行実施状況

全道の八十六・四パーセントの小学校が実施している（昭和五七年度）。

(1)実施時期―六月に実施する学校が最も多く（四〇％）、その他は五月から十月の間に行われている。

(2)宿泊地―道外に出る学校は三パーセントあるが、ほとんどは道内で、札幌、洞爺、登別方面が比較的多い。

(3)交通機関―ほとんどの学校が貸切りバスを利用している。

三、中学校の修学旅行（見学旅行）の実施状況

全道の九〇・二パーセントの中学校が実施している（昭和五七年度）。

(1)実施時期―約五割の学校が五月に実施しており、次いで六月に実施している学校が多い。

(2)宿泊地―約五割の学校が東北方面（仙台、松島、平泉、弘前、十和田方面が多い）に出ており、他の学校は、札幌、洞爺、登別を経て、函館、松前方面に出ることが多い。

(3)交通機関―鉄道（連絡船を含む）とバスの併用が約七割で他は貸切りバスを利用している。

なお、本道には、へき地小規模学校が多いので、小・中学校ともに隔年で実施する学校がある。

四、公立高等学校の修学旅行（見学旅行）の実施状況（五六年度全日制）

全道のすべての公立高等学校で実施している。

(1)実施時期―九十八・六パーセントの学校が九～十一月の三か月間に実施し、他は四月及び八月に実施している。

(2)宿泊地―すべての学校が京都に宿泊し、約四〇パーセントの学校が東京、約十七パーセントの学校が奈良に宿泊し、他の地域での宿泊は極めて少ない。

(3)交通機関―すべての学校が鉄道及びバスを併用している。

五、修学旅行実施に関する今後の課題

高等学校においては、疲労度の軽減を図れるなどの利点から航空機の利用についての関心が高まってきている。

札幌市の公立高等学校については、昭和五八年度において、数校を選び試行的に航空機による実施を予定している。

道としても、昨今の交通機関の多様化やその安全性など諸般の状況を勘案して、今後、航空機の利用の可能性について検討する必要があると考えている。

北海道における修学旅行の実態と問題点 ②

北海道教育委員会学校教育部

一、回収率
二、実施学年
三、実施時期
以上　前号
四、旅行期間

小学校は調査対象校四二二校、一泊二日が三二五校（七四・六％）、二泊三日が一〇七校（二五・四％）で、全国的にみても、小学校児童の二泊は、山梨、高知など数少いが、三重県の場合、度会郡（二十二校）志摩郡（二十二校）熊野市（十三校）など交通上の事情によるところが多いのであろうか。

中学校は調査対象校一六四校、二泊三日が一一二校（六八・三％）三泊四日（船中泊一泊）一六校（九・八％）三泊四日が三六校（二一・九％）で、二泊三日が主となっている。

高等学校は三泊四日が四三校と集中し、これについで四泊五日が十校、二泊三日が五校、一泊二日が三校（養）となっている。

これは要するに、小学校は一泊二日、中学校は二泊三日、高等学校は三泊四日が主流となって、長短の巾が出ていることになる。

五、引卒教員数

引卒教員一人当りの児童数は、一一・〇六名で、前年度の十二・三人と比べて改善されている。

児童との行きとどいた接触を考えると、少しでも小人数が望まれるが、概して小規模学校の多い郡市が少なくなっている。

例をあげると、阿山・名賀郡（八・九名、五・三名）飯南郡（七・五名）北牟婁郡（七・八名）熊野郡（八名）鳥羽郡（八・七名）などで、多い方は、鈴鹿市（一五・三名）桑名市（一五名）桑名郡（一五名）となっているが、桑名郡の場合、前年度二三・四名から大幅な改善となっている。

中学校の基準は、学級数の二倍に、校長と養護教諭を加えた数であるが、調査対象校一六四校中、基準通りの学校は、七三校（四四・五％）とほぼ半ば近く、マイナス一名が四〇校（二四・四％）プラス一名が二一校（一二・八％）となっており、マイナス五名が一校、プラス四名が二校と両端の格差が大きい。

引卒教員数の調査とともに、郡市別引卒教員一人当り生徒数の調査をしているが、参考になる。平均一五・五人、名張市の一八・六人が最も多い。

高等学校については、調査は行っていないが、別の調査によると、特に規定はないが、校長・教頭またはこれに代る責任者担任および養護教諭というのが最小限度となっている。

六、児童生徒の旅費

小学校では、一泊二日の実施校三二五校の平均は一二、六六四円、最高は一六、〇七五円、最低は七、九五〇円となっている。また、二泊三日の実施校一〇七校の平均は二三、四二六円、最高は三七、五〇七円、最低は一九、〇五二円である。

これらの児童旅費の内訳は、津市を例にとってみると、一泊二日で交通費四、七二〇円、宿泊費四、八八六円、その他（食事代、入場観覧料）二、四二三円となっている。

中学校では、二泊三日の実施校一一二校の平均は、三三、一四四円、最高は四〇、五五九円、最低は二三、三九四円。

三泊四日実施校五二校の平均は四〇、四一〇円、最高は六二、六四〇円、最低は三一、六四〇円とひらきがある。

高等学校は、普通校の平均三七、五四〇円、最高四二、八〇〇円、最低二一、一二〇円、養護学校の場合、平均二七、三四六円、最高四三、六八〇円、最低一七、八〇〇円と差が大きい。

各旅行先別にみると、広島・山口・岡山方面が四〇、六四一円、北九州方面が三九、〇三六円、信州が三六、二〇四円、箱根静岡が二五、二九〇円、秋田県三八、九五〇円などである。

とくに、秋田県へ一校行ったのは、東北新幹線が開通して便利になった事と、学校が独自の目標をもって秋田県の民謡歌舞団わらび座に研修場所を定めたもので、宿泊が二泊で七、〇〇〇円と特別な料金で宿泊出来た。

旅行経費の制限についての主なものは次のようなものである。

1　58年度から四三、〇〇〇円になったが、今少し増額が必要である。

2　制限内に納まるよう、努力した。業者手数料を5％におさえ、計画を早く（2年位前に）業者と契約して値上げを押えた。四五、〇〇〇円位がよい。

3　三九、〇〇〇円の従来の線では極めて窮屈である。

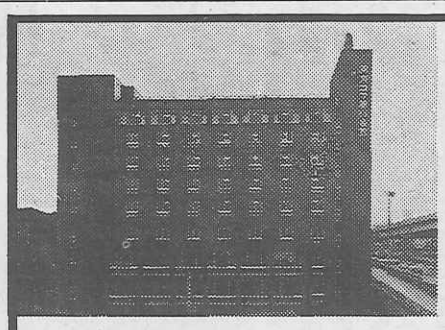
4　定時制の場合、参加人員が少ないため、一人当りの経費が割高になる。

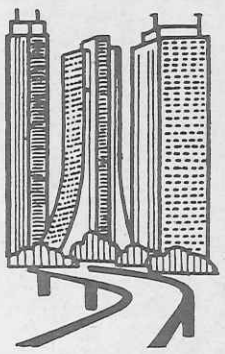
5　宿泊代で節減すると、食事の質が落ちるので、現在の制限額では無理である。

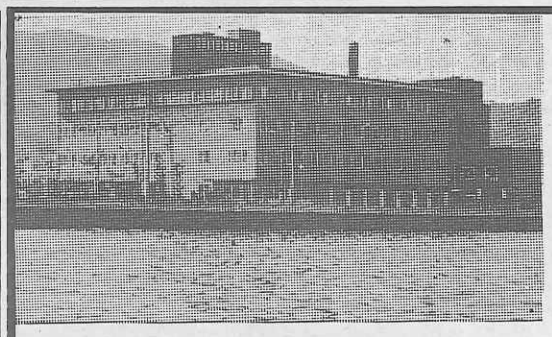
6　諸経費が値上りし少なくとも一割程度の枠の緩和が望ましい。

新しい修学旅行の幕あけ！
洋上体験学習

貸切専用外航純客船　国内、海外へ
クルーザー
さんふらわあで航く修学旅行
●阪神ー別府直行大型フェリー（毎日1便）●阪神ー別府航路（毎日2便）
★貸切船こはく丸（3,000ﾄﾝ）もご利用ください。
お問合せは
関西汽船
●営業部営業課：大阪市北区梅田1－1　☎（06）344－7031
●東京支社：東京都中央区八重州1-4-14　☎（03）274－4273
及び各支店、営業所、旅行代理店へ


東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。
ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL（03）585－1046（代表）
東京コマ旅行会館

首都東京を見て、何かを！

学校単位の貸切りで
ご利用下さい
30年の経験を生かす 50旅館 8000名収容
本郷の旅館へ
本郷旅館協同組合
〒113 東京都文京区本郷4－36－3 TEL 03－813－9381


いらっしゃいませ
びわ湖国定公園
近江路の旅へ
収容　600名様
浴場　150名様
設備　全館冷暖房
防災　諸設備完備
駐車場　バス20台
政府登録
国際観光旅館
びわ湖ツーリスト・ホテル
大津市におの浜3丁目2－25　電話　大津（0775）24－2321

贈ります、あなたの心にのこる旅
〈東急観光〉は、旅のことなら何でもお世話する旅の総合デパートです。とくに修学旅行では、学校と連絡を密にして学校の指示に従って、安全・快適で教育効果のあがる旅行ができるように鋭意努力しております。
また、先生方の御意見を参考にした資料作りにも積極的に取り組んでいます。右の表は一例です。営業所に常備してありますのでコース作成等の資料に御利用下さいませ。
（例）
○見学観光施設一覧
〔一般〕静岡　山梨　長野
〔一般〕富山　石川　福井　愛知　岐阜
〔社寺〕
○産業見学施設一覧
○野外活動施設一覧
○見学地図
美ガ原　松本市
霧ガ峰・蓼科高原
車山・霧ガ峰ハイキングコース
軽井沢・浅間山
軽井沢サイクリングコース
志賀高原　上高知・乗鞍
志賀高原自然歩道ガイド　志賀高原自然探勝路
長野市　立山・黒部　金沢市
栂池高原　八方尾根
戸隠・妙高　新潟市
五箇山・白川　高山　犬山・日本ライン・明治村
名古屋市　木曽路
○宿泊施設案内
上諏訪温泉　蓼科温泉　白樺湖
修学旅行受入可能ホテル一覧
○関係警察署・保健所・消防署一覧
○中部地方旅行白地図（折込）
東急観光
運輸大臣登録一般第38号